

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100096		
法人名	社会福祉法人 揺籃会		
事業所名	グループホーム ゆうあいの郷		
所在地	樺戸郡浦臼町字キナウスナイ188-70		
自己評価作成日	平成22年5月18日	評価結果市町村受理日	平成22年7月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0177100096&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0177100096&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(かでの2・7)4階
訪問調査日	平成22年6月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①地域との交流が活発に行なわれている。 (町行事、社会福祉協議会主催の行事への参加、買い物外出、町内ドライブ、サークルへの参加、幼稚園、小学校との交流、ボランティアとの交流)</p> <p>②利用者の1年間の日々の様子をDVDにまとめ上映会を行なっている。 (家族交流会、運営推進会議で上映)</p> <p>③外部からの講師を招いての研修を行ない、職員の学べる機会が多く、スキルアップにつながっている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、浦臼町よりの要請で、町に唯一の特別老人ホームを立ち上げた社会福祉法人「揺籃会」が併設した1ユニットのグループホームである。理念に基づき、「利用者の有する能力に応じて可能な限り、自立生活を営む事が出来る様に支援する。」という介護サービスの提供目的を持ち、利用者のペースに合わせてゆったりとした家庭的な生活リズムの中で、職員と一緒に家事や身の回りのことを行うことで、利用者は自己有用感として所属感につながる精神的な満足が得られる生活を楽しんでいる。さらに、利用者の1年間の日々の生活の様子や各種行事に参加して楽しんでいる様子をDVDにまとめ、家族交流会などで上映会を行っており、関係者から好評を得ている。決して演技ではなく、自然な表情が直に伝わってくる。</p> <p>工夫されている点としては、災害対策において地域の消防団と協定書を交わし、地域との連携した防災対策を進めている。運営推進会議の議事録については、会議の内容(特に出席者からの要望・意見)がわかるようにされている。今後、グループホーム独自の理念「地域社会の中で人と人とのふれあいを大切にしていきます。」を運営方針に明記して、本人及び家族に周知されるよう期待したい。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ネームプレートの裏に、事業所の理念とグループホームの理念を記し、いつでも見れるようにしている。またミーティングや会議などで理念について話し、理念に基いたケアの実践に取り組んでいる。	母体組織の基本理念を基にし、事業所独自の「地域社会の中で人と人とのふれあいを大切にしていきます」という理念掲げ、会議などの際に理念に触れた話し合いを行い、理念の共有化を図るとともに理念に基づいたケアを日常的に行っている。	事業所独自の理念を「重要事項説明書」の運営方針にも明記し、利用者及び家族に周知されるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町、社会福祉協議会でされているよってけサロンやふれあい食事会に参加したり、幼稚園に訪問し一緒に花を植えたりと色々な行事や活動に積極的に参加し交流を図っている。	利用者は地域の行事(敬老会、ふれあい食事会など)に参加し、幼稚園との交流もある。事業所の夏祭りに地域住民に参加を呼びかけるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回、地域ケア会議に出席し、地域の高齢者の暮らし方等の情報を受け、出席者全員で支援方法を検討している。また時にはグループホームでのケア方法を参考にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の日々の状況、活動内容を定例として必ず報告をしている。また出された意見、要望等を管理者が職員に報告し、話し合いを行ない改善に取り組んでいる。	2か月に一度開催している運営推進会議には、家族や役場の社会福祉課長・社協職員が参加し、事業所の運営状況を説明し、地域の方々との意見交換を緊密に行っている。議題によっては消防団員の方も参加している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議や積極的に地域行事へ参加したり、施設行事を案内したりと、事業所の取り組みを伝え協力関係づくりをしている。(よってけサロン・運動会・夏祭り・秋祭り・敬老会ふれあい食事会等)	母体組織は、町内で唯一のグループホームを運営しており、役場とは密に連携を取って情報交換をしている。運営推進会議に役場の社会福祉課長が出席しており、取り組みを伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部への研修に参加したり、委員会を中心に日頃から身体拘束を行わないケアについて話し合いを行ない、実行している。日中は玄関の施錠を行なう事はありません。	事業所内は日中は施錠を行っていないが、夜間は防犯上一部施錠している。管理者と各職員が、身体拘束廃止の研修に参加して、委員会を中心に話し合い理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者を中心に委員会を開催し虐待について、話し合ったり、研修に参加し学んだ事を会議やミーティングで発表し、虐待防止に努めている。		

グループホーム ゆうあいの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議や研修で資料を元に勉強をしている。また老人社会福祉協会で発行している倫理綱領を毎日ミーティング時に複読し、また会議の時には内容について理解するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、事前に家族の方から不安や疑問点を尋ねており、重要事項を説明書、パンフレット、概要などを渡し説明を十分行ない、理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の利用者懇談会や日々の関わりの中で意見や要望を聞いている。家族の方にはアンケートを実施したり、来園時に意見や要望を聞いたりサービスの改善に努めている。(H22. 4月実施)	入居時のアセスメントで希望を聞き介護計画に反映するとともに、家族が気軽に希望や要望を表せるよう訪問時に場面を設定するよう配慮している他、家族に対してアンケートを取るなどして、要望に対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者、管理者はケア会議や毎日のミーティング、人事考課面接時に出された意見、提案を聞きそれをもとに反映されている。	運営者や管理者は、日々のミーティングや会議、人事考課面接時に意見を聞きいている。行事計画などを職員に役割分担してもらいなど、職員の意見が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を半年に1回行ない、面接を通して個々の努力や実績等の評価や今後の目標についてアドバイスがあり、向上心を持って働くことができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修に参加したり、外部から講師を招いての研修を受ける機会を確保し、職員のスキルアップが図れるようにしている。(昨年度の内、外研修は36回行なっている)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の際に他のグループホームの職員と情報交換を行ったり、地域ケア会議に出席したりと交流を図る機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時や隣接されたディサービス、ショートステイを利用されている方が入所を希望している時には、利用時に訪ねていき、本人の困っている事、不安に思っている事などに耳を傾け、安心して生活を送ってもらえる為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時や来園時に、困っている事、不安に思っている事、求めている事をゆっくりと聞くようにしている。繰り返し何度でも話を聞く事で安心感を持ってもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、ケアマネと話し、本人の現在の状態を把握し、今必要としている支援を見極め、対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意とする事を把握し、出来る事を職員と一緒に出来ないながら、お互いに教え合いながら暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来園時には、散歩やお茶を飲む等一緒に過ごす時間を大切にしている。また本人の日常の様子を話したり、DVDにし家族に見ていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内へのドライブや地域の行事に参加したりと日々暮らしていた環境を大事にし、支援している。(ふれあい広場、敬老会等)	利用者の殆どが周辺地域在住の方で、知人や友人の訪問も多い為、来訪時にゆったりくつろいでお話出来るように配慮し、時には居室に案内するなど楽しい時間が過ごせるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、お互いの居室を尋ねあったり、会話やレク活動を行ったり体調を気づかい合うといった関係が出来、一人ひとりが孤立せずに支え合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者は併設する特養に入所した方が多く、職員が本人を訪ね声を掛けたり、合同の行事の際には家族との交流もあり会話をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、希望、意向を聞きケアプランに取り入れている。困難な場合には本人の落ち着いた行動等を職員が把握しており、プランに役立てている。	本人に寄り添って、日常の会話やちょっとした表情や態度から本来の思いを探り、関係職員で話し合っ出来る限り本人の意向に沿った暮らしが継続出来るように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	本人や家族に今までの生活歴、生活環境等を聞き、把握に努め、アセスメントした上で介護計画に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態等を毎日記録し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係職員で担当会議を行ったりケアカンファレンス、ミーティングで意見を出し合い本人が、よりよく暮らせるよう現状に即した介護計画を作成している。	利用者と家族の意向を基に職員全員で話し合いその人らしく暮らし続けるための現状に即した計画を作成し、更新時には本人、家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等を毎日記録し、情報を共有、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する特養やデイサービスの利用者とは、行事のほか、カラオケを一緒に楽しむ等、日常的に交流がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々と花を植えたり、一緒に巻きずし作りをしたり、避難訓練の協力をさせていただくなど、様々な面で協力していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する病院を受診している。利用者の状態を常に看護師に報告、相談し、状況に応じて医師に診ていただいている。	協力医療機関による訪問診療、健康管理を受けている。また、希望によりかかりつけ医への受診も支援し、通院は家族対応となっている。利用者の状況により、歯科医による口腔ケアも受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態に変化が見られた時には、すぐに特養やデイ、かかりつけ病院の看護師に連絡し、相談する事ができ、必要な時は受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ出向き、早期退院に向け、病院関係者と情報交換や相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前面接事や契約時に終末期ケアについて話し、特養への入所など事業所で出来る事を本人や家族に伝え、現在7名の方が特養の待機者として申し込みをしている。また「重度化した場合における対応の指針」を作成し職員が周知している。	入居契約時に事業所としての重度化した場合の対応及び終末期ケアについて本人及び家族に丁寧に説明しており、理解を得ている。重度化に関する指針も作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が年一回の救急救命講習を受けている。急変や事故の際のマニュアルを見やすい所に置いてある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	場面想定を変えながら、年二回避難訓練を実施している。町内会との災害協定があり、協力体制ができています。防火実務研修会に参加し、他の職員に避難の仕方を伝えている。	年2回夜間も想定した避難訓練を行い、利用者が参加し、消防職員による消火訓練などの指導を受けている。地域と協定書を交わし、地域防災体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという気持ちをもって接し、プライバシーに配慮した対応を行なっている。	職員は利用者一人ひとりの個性や思いを尊重して、丁寧な声掛けをしている。また、利用者の話を傾聴するように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動や会話の中から本人の思いに気づき、意図的に表現できるような言葉掛けをして、自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出やレクリエーション等本人の希望を聞き行なっている。また食事、入浴なども本人のペースを大切に好きな時に行なえるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの化粧品を使ったり、その日に着る洋服を自分で選ぶなどその人らしいおしゃれが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段、調理に興味をしめさない利用者も昔から行っていたギョーザ作りに参加したり、そば打ちを得意とする方は、口頭で職員に的確に指示をする等、食事作りを楽しんでいる。	利用者がそれぞれの役割を持って食事の準備・片付けを行っている。食事中はテレビを消し、職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたメニューに基づき一人ひとりの要望、習慣、好みを把握し栄養バランスや水分量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	毎食後歯磨きの声掛けをしたり、ブラッシングの介助をしている。又年一回口腔ケアを実施一人ひとりに応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握しさりげなく誘導を行ない、トイレでの排泄が行なえる様にしている。	一人一人の排泄パターンを把握し支援している。誘導時の言葉かけや失禁時の対応の際、羞恥心や不安を与えないよう配慮している。オムツなどの購入は家族がより状況を把握しやすいようお願いしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食事の摂取や運動、マッサージ等個々に応じた予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間を一人ひとりの希望を聞き実施している。また好みの入浴剤を選んでもらったり、歌が好きな方の為に音楽を掛ける等、利用者がゆったり入浴できるように支援している。	時間や曜日、回数(最低週2回)など、一人一人の希望に沿って対応している。入浴を拒否する利用者には声掛けを工夫することで入浴に繋げている。また、音楽を流したり、入浴剤を使用し、くつろいで入浴できるような配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで昼寝をされたり、夜間足が冷たいと言われる方にホットパックをしたり、一人ひとりの生活習慣を把握し気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの疾病、服薬内容、用量などのファイルがありいつでも確認できる様になっている。また薬の変更時にはミーティング、連絡ノート等で周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の支度や畑仕事、縫い物など一人ひとりに合った役割を把握し、活動が楽しめるように支援している。		

グループホーム ゆうあいの郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に考慮し近くの公園まで散歩をしたり、町内へのドライブや図書館、町内で行なっているイベント等利用者の希望を聞き、外出するように努めている。また家族の方とお墓参りに行ったり、自宅へ外出している。	日常的に近くの公園などに散歩に出掛けている。利用者の希望により町内のイベントに車で出掛けたり、家族の協力で墓参りに行ったりと、外出する機会を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力量に合わせて、外出時にはご自分で品物を選んだり支払い等を行なえる様にしてしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚等から葉書が届いたり、送り物が届いた時等には、本人からお礼の電話を掛けてもらうように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、玄関、廊下は歩行の妨げにならないように配慮をしている。また季節や行事によって飾り物を変えたり、利用者と一緒に作った作品を飾る等、生活感や季節感を取り入れている。またテレビの音量や窓からの日差しには気を配っている。	共用空間には、大きな窓から明るい採光、空調も適度に調整されている。中庭が一望でき、畑や花壇による四季の移り変わりが分かり易い。不快な音や臭いは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファ、食卓椅子、和室等、気の合った方と過ごしたり、一人ひとり好きな場所で過ごせるような工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使用していたタンスや仏壇など馴染みの物を置き、安心して過ごせるようにしている。また泊り客が予想される方はタンスに予備の布団を用意し、一緒に過ごせるような支援をしている。	居室の床や壁は、利用者に配慮した素材と配色が施され、室内には利用者の馴染みの物が置かれている。壁には思い出の写真等が貼られており、仏壇が置かれている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを付け一人でも安全に歩けるようにしている。居室には表札を付け、トイレは表示を付けるなど、混乱せずに生活が送れるようにしている。		